

第Ⅱ部 調査結果の概要

第1章 環境に配慮した生活

1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望 (P229)

多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」(25.7%)と「購入したいと思わない」(27.9%)がともに2割台であった。

2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望 (P231)

多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」(51.8%)が約5割となった。

一方、「購入したいと思わない」(15.3%)は1割台であった。

3 環境問題の情報収集の有無 (P233)

興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」(20.1%)は2割であった。

一方、「収集していない」(51.3%)は約5割となり、「収集していない」が「収集している」を31.2ポイント大きく上回った。

4 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望 (P235)

NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したいと思う、すでに参加している」(10.1%)が1割であった。

一方、「参加したいと思わない」(36.2%)は3割台であった。

5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献 (P237)

企業等の持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思うか尋ねたところ、「生かされていると思う」(43.4%)が4割台であった。

一方、「生かされていると思わない」(20.3%)は2割であった。

第2章 生物多様性

1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (P239)

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」(36.6%)と「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(33.0%)がともに3割台であった。

2 多種多様な生物が生息できる環境の保全への意識 (P241)

多種多様な生物が生息できる環境の保全について、どのように考えるか尋ねたところ、「人間の生活が制約されない程度に、生息環境の保全を進める」(45.5%)と「人間の生活がある程度制約されても、生息環境の保全を優先する」(42.9%)がともに4割台が多かった。

3 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの (P243)

神奈川県における生物多様性の保全について、どの取組が重要だと思うか複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」(85.9%)が8割台で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組」(65.8%)が6割台となった。

4 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組 (P245)

生物多様性を知る、または行動する機会として、どの取組に参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」(42.5%)が4割台で最も多く、次いで「自然や生きものとふれあう自然観察会」(37.8%)が3割台であった。

第3章 神奈川県の農業

1 地元産の農作物の購入意向 (P247)

農作物を購入する際に、地元産のものを優先したいと思うか尋ねたところ、「優先したいと思う」(66.2%)が6割台となった。

一方、「優先したいと思わない」(15.7%)は1割台であった。

2 将来の神奈川県の農業に対する考え (P249)

将来の神奈川県の農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」(79.7%)が8割で最も多かった。

3 神奈川県の農業に期待する役割 (P251)

神奈川県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」(61.7%)が約6割で最も多く、次いで「食料の安定供給」(15.7%)が1割台であった。

第4章 食の安全・安心

1 普段食べている食品の安全性 (P253)

普段食べている食品が安全だと思うか尋ねたところ、「安全だと思う」(13.8%)と「どちらかといえば安全だと思う」(51.2%)を合わせた《安全だと思う》(64.9%)は6割台となった。

一方、「安全だと思わない」(3.2%)と「どちらかといえば安全だと思わない」(5.9%)を合わせた《安全だと思わない》(9.2%)は約1割であった。

2 普段食べている食品が安全だと思う理由 (P255)

「1 普段食べている食品の安全性」で、「安全だと思う」と回答した人に普段食べている食品が安全だと思う理由を複数回答で尋ねたところ、「普段食べていて、体の調子が悪くなるなど健康を害することがない(なかった)から」(55.4%)が5割台で最も多く、次いで「食品の表示(原材料や食品添加物)などをチェックして、信頼できるものを選んで食べているから」(49.2%)が多かった。

3 食の安全・安心にすることがらで関心のあるもの (P257)

食の安全・安心にすることがらで関心のあるものを複数回答で尋ねたところ、「食品添加物」(73.7%)が7割台で最も多く、「残留農薬」(52.9%)と「食中毒」(50.8%)が続いた。

4 食の安全・安心に関する情報の入手先 (P259)

食の安全・安心に関する情報を最も得やすい手段を尋ねたところ、「テレビ、ラジオ」(35.1%)が3割台で最も多く、次いで「インターネット」(29.0%)が多かった。

第5章 食・食育

1 食育への関心 (P261)

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(34.4%)と「どちらかといえば関心がある」(40.1%)を合わせた《関心がある》(74.5%)は7割台となった。

一方、「関心がない」(4.2%)と「どちらかといえば関心がない」(13.0%)を合わせた《関心がない》(17.2%)は1割台であった。

2 健康的な食事内容の心がけへの意識 (P263)

毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」(73.6%)は7割台となった。

一方、「心がけていない」(17.4%)は1割台であった。

3 就寝前に食事をとらないことへの意識 (P265)

就寝前2時間以内に食事や夜食をとらないように気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」(62.2%)が6割台となった。

一方、「気をつけていない」(33.2%)は3割台であった。

4 朝食を同居の人と食べる頻度 (P267)

複数人でお住まいの人に、朝食を同居の人と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」(51.5%)が約5割で最も多く、次いで「ほとんど食べない」(18.8%)が約2割であった。

5 夕食を同居の人と食べる頻度 (P269)

複数人でお住まいの人に、夕食を同居の人と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」(61.2%)が約6割で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」(17.2%)が1割台であった。

6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P271)

一人暮らしの人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」(46.8%)が4割台で最も多く、次いで「週に1回程度食べる」(12.8%)が1割台であった。

7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P273)

一人暮らしの人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」(55.3%)が5割台で最も多く、次いで「週に1日程度食べる」(14.2%)が1割台であった。

8 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識 (P275)

ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(15.6%)と「どちらかといえば食べている」(27.2%)を合わせた《食べている》(42.9%)は4割台となった。

一方、「食べていない」(8.7%)と「どちらかといえば食べていない」(42.8%)を合わせた《食べていない》(51.5%)は約5割となった。

9 歯と口の健康を保つために気をつけていること (P277)

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」(94.0%)が9割台で最も多く、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」(48.5%)と「かかりつけ歯科医を決めている」(47.5%)が続いた。

10 食事のマナーを正しくできていることへの意識 (P279)

自分は食事のマナー(いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など)を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」(20.4%)と「ある程度できていると思う」(54.8%)を合わせた《できていると思う》(75.2%)は7割台となった。

一方、「まったくできていないと思う」(1.9%)と「あまりできていないと思う」(19.2%)を合わせた《できていないと思う》(21.0%)は約2割であった。

11 食品の安全性に関する知識 (P281)

自分に食品の安全性に関する知識(どのような食品を選んだほうがよいか、どのような調理が必要かなど)があると思うか尋ねたところ、「十分にあると思う」(8.3%)と「ある程度あると思う」(56.8%)を合わせた《あると思う》(65.1%)は6割台となった。

一方、「まったくないと思う」(2.2%)と「あまりないと思う」(27.0%)を合わせた《ないと思う》(29.2%)は約3割であった。

12 食べ物を無駄にしないことへの意識 (P283)

食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「ある程度気をつけている」(51.5%)が約5割で最も多く、次いで「気をつけている」(39.7%)が4割であった。

一方、「あまり気にしない」(6.1%)は1割に満たなかった。

13 農林水産業の作業体験 (P285)

職業として農林水産業に従事していない人に、農林水産業の作業などを体験したことがあるか尋ねたところ、「ある」(56.5%)が5割台となった。

一方、「ない」(31.4%)は約3割であった。

14 農林水産業を体験することへの関心 (P287)

職業として農林水産業に従事していない人に、農林水産業を体験することに関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(20.4%)と「どちらかといえば関心がある」(31.5%)を合わせた《関心がある》(51.9%)は約5割となった。

一方、「関心がない」(7.6%)と「どちらかといえば関心がない」(23.5%)を合わせた《関心がない》(31.0%)は約3割であった。

第6章 スポーツ

1 自身の体力観 (P289)

自身の体力観について尋ねたところ、「自信がある」(5.3%)と「どちらかといえば自信がある」(30.2%)を合わせた《自信がある》(35.5%)は3割台であった。

一方、「不安がある」(16.4%)と「どちらかといえば不安がある」(41.4%)を合わせた《不安がある》(57.8%)は5割台となった。

2 1年間のスポーツ実施日数 (P291)

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「月に1～3日程度(年12日～50日)」(16.5%)が1割台で最も多く、「週に3日程度(151日～250日)」(13.8%)と「週に1日程度(年51日～100日)」(13.2%)が続いた。

3 「3033(サンマルサンサン)運動」の認知度 (P293)

「3033(サンマルサンサン)運動」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(84.0%)が8割台で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」(12.1%)が1割台であった。

4 「かながわパラスポーツ」の認知度 (P295)

「かながわパラスポーツ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(89.4%)が約9割で最も多かった。

5 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度 (P297)

「総合型地域スポーツクラブ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(85.5%)が8割台で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」(9.8%)が1割であった。

6 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度 (P299)

ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」(36.0%)が3割台であった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(63.2%)は6割台となった。

7 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向 (P301)

横浜市で開催されるラグビーワールドカップを直接会場で観戦したいか尋ねたところ、「観戦したくない」(30.2%)が3割で最も多く、次いで「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」(28.4%)が多かった。

第7章 東京2020大会に向けた取組

1 東京2020大会への関心 (P303)

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京2020大会」という)」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(46.1%)と「どちらかといえば関心がある」(28.6%)を合わせた《関心がある》(74.7%)は7割台となった。

一方、「関心がない」(6.9%)と「どちらかといえば関心がない」(14.7%)を合わせた《関心がない》(21.6%)は約2割であった。

2 セーリング競技への興味・関心 (P305)

神奈川県江ノ島で開催されるセーリング競技にどの程度興味・関心があるか尋ねたところ、「セーリング競技に興味・関心があり、定期的にセーリング競技を行っている」(0.4%)、「セーリング競技に興味・関心があり、セーリング競技を体験したことがある」(1.6%)、「どちらかといえば興味・関心がある」(30.2%)を合わせた《関心がある》(32.2%)は3割台であった。

一方、「どちらかといえば興味・関心がない」(43.0%)と「興味・関心がない」(23.8%)を合わせた《関心がない》(66.7%)は6割台となった。

3 セーリング競技の観戦意向 (P307)

東京2020大会のセーリング競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」(45.6%)が4割台で最も多かった。

一方、「観戦するつもりはない」(39.7%)は4割であった。

4 東京2020大会やセーリング競技に関するイベントへの参加意向 (P309)

東京2020大会やセーリング競技に関するイベントで、どのようなイベントであれば参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「歌手などの芸能人による音楽ライブ・トークイベント」(27.4%)と「東京2020大会など、セーリング競技の国際大会への観戦招待」(26.7%)がともに2割台であった。

5 東京2020大会やセーリング競技に関する情報の入手先 (P311)

東京2020大会やセーリング競技に関する情報の入手先について複数回答で尋ねたところ、「テレビ・ラジオ」(65.6%)が6割台で最も多く、「新聞・雑誌広告(タウン誌など)」(30.5%)と「県のたより」(30.4%)が続いた。

第8章 神奈川の文化芸術

1 最近1年間の鑑賞状況と今後の鑑賞意向 (P313)

ここ1年くらいの間に、ホールなどでの文化芸術の公演や展覧会等へ行ったことがあるか、また、今後行ってみたい(引き続き行きたい)と思うか、10項目について複数回答で尋ねたところ、「鑑賞しに行ったことがある」では、「映画、アニメ、CG(コンピュータグラフィクス)など映像作品」(36.4%)、「音楽(歌謡曲、ポップス、ロック、ジャズ、管弦楽、室内楽、声楽、オペラなど)」(34.9%)、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)」(34.0%)がそれぞれ3割台であった。一方、「今後行ってみたい(引き続き行きたい)」では、「音楽(歌謡曲、ポップス、ロック、ジャズ、管弦楽、室内楽、声楽、オペラなど)」(35.8%)と「演劇(現代劇、ミュージカルなど)」(33.1%)がともに3割台であった。

2 文化芸術を鑑賞した主な地域 (P327)

「1 最近1年間の鑑賞状況と今後の鑑賞意向」で、「鑑賞しに行ったことがある」を1つでも選択した人に、主にどの地域で鑑賞したか複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「横浜」(58.4%)が約6割で最も多く、次いで「東京都」(51.7%)が約5割となった。

3 現在活動している・今後活動したい文化芸術活動 (P329)

現在、文化芸術活動(鑑賞を除く)をしているか、また、今後活動してみたい(引き続き活動したい)と思うか、10項目について複数回答で尋ねたところ、すべての項目で「現在活動している」は1割に満たなかった。

一方、「今後活動してみたい(引き続き活動したい)」では、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)」(16.6%)、「音楽(歌謡曲、ポップス、ロック、ジャズ、管弦楽、室内楽、声楽、オペラなど)」(15.3%)、「生活文化(生け花、盆栽、書道など)」(12.9%)がそれぞれ1割台であった。

4 文化芸術活動をする際の不満や不便 (P343)

「3 現在活動している・今後活動したい文化芸術活動」で、「現在活動している」を1つでも選択した人に、文化芸術活動をする際に、どのような不満や不便を感じるか複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「受講料や参加費が高い」(30.4%)が3割で最も多く、「練習や稽古をする適当な場所がない」(26.6%)と「自分自身で時間があまりとれない」(23.9%)が2割台が続いた。

第9章 県立都市公園

1 県立都市公園の公園施設に関する満足度 (P345)

県立都市公園に設置されている公園施設に満足しているか尋ねたところ、「満足している」(17.3%)と「満足していない」(12.6%)がともに1割台で、「わからない」(66.1%)が6割台となった。

2 県立都市公園の活性化・賑わいを創出するための取組 (P347)

県立都市公園の活性化・賑わいを創出するためには、どのような取組が必要だと思うか尋ねたところ、「公園施設の充実」(28.1%)が約3割で最も多く、次いで「維持管理の充実」(18.5%)が約2割であった。

3 県立都市公園に欲しい公園施設 (P349)

県立都市公園には、どのような公園施設が欲しいと思うか複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「芝生広場(無料)」(25.2%)が2割台で最も多く、次いで「休憩棟(無料)」(24.1%)が多かった。

4 県立都市公園における有料公園施設の導入について (P351)

県立都市公園に有料で利用することのできる公園施設の導入を進めるべきか尋ねたところ、「進めるべき」(36.2%)は3割台であった。

一方、「進めるべきでない」(18.1%)は約2割であった。

第10章 かながわの広報

1 県の広報の達成度 (P353)

神奈川県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えていると思う」(9.2%)と「どちらかといえば伝えていると思う」(40.3%)を合わせた《伝えていると思う》(49.5%)は5割であった。

一方、「伝えていないと思う」(10.7%)と「どちらかといえば伝えていないと思う」(10.9%)を合わせた《伝えていないと思う》(21.6%)は約2割であった。

2 県の広報媒体の認知度 (P355)

神奈川県が県政の情報を伝える広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」(74.6%)が7割台で最も多く、次いで「県のホームページ」(27.8%)2割台であった。

3 神奈川県情報の入手先 (P357)

神奈川県の情報(事業や行事、お知らせなど)をどこから入手しているかを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」(65.4%)が6割台で最も多く、次いで「テレビ・ラジオのニュースなど」(22.8%)が2割台であった。

4 今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法 (P359)

神奈川県が情報を発信する上で、今後、積極的に力を入れたほうがよいと思う広報の方法を複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」(45.0%)が4割台で最も多く、「タウン誌、ミニコミ誌など」(27.6%)、「県のホームページ」(22.5%)、「新聞での紙面広報」(22.5%)が2割台で続いた。

第11章 ヘルスケアICTの取組

1 自身の健康への関心 (P361)

「ヘルスケアICT」の取組について説明した上で、自分の健康について関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(57.2%)と「どちらかといえば関心がある」(32.3%)を合わせた《関心がある》(89.5%)は9割と多かった。

2 「マイME-BYOカルテ」の認知度 (P363)

神奈川県が公開している、パソコンやスマートフォンで自分自身の健康情報を記録・管理できるアプリケーション「マイME-BYOカルテ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」(91.6%)が約9割と多かった。

3 見える化・データ化してほしい健康情報 (P365)

自分の健康情報が「見える化」・「データ化」できるとしたらどのような項目がよいと思うか複数回答で尋ねたところ、「体重・体脂肪率」(52.1%)と「疲労度」(50.3%)がともに5割を超えて多かった。

4 健康の維持・改善に向けたサービス (P367)

どのようなサービスがあれば健康の維持・改善に向けた行動ができると思うか複数回答で尋ねたところ、「心身の状態に合わせて適切なアドバイスをしてくれるサービス」(52.3%)が5割台で最も多く、次いで「身体の状態が分かる指標が示され、行動によってその指標が変化するサービス」(44.2%)が4割台であった。

第12章 がん・肝炎対策

1 「がん検診」の受診状況 (P369)

過去2年間にがん検診を受診したか複数回答で尋ねたところ、「大腸がん検診」(31.0%)が約3割で最も多く、次いで「胃がん検診」(29.9%)が多かった。

一方、「受診していない」(41.6%)は約4割であった。

2 「がん検診」を受診しない理由 (P371)

「1 がん検診の受診状況」で、「受診していない」と回答した人に、その主な理由を複数回答（3つまで）で尋ねたところ、「忙しいから」（35.5%）が3割台で最も多く、次いで「費用がかかるから」（29.3%）が多かった。

3 ウイルス性肝炎の認知度 (P373)

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことがある」（48.0%）が4割台で最も多く、次いで「どのような病気か知っている」（40.1%）が多かった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」（10.4%）は1割であった。

4 「肝炎ウイルス検査」の受診状況 (P375)

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」（23.2%）は2割台であった。

一方、「受けたことがない」（65.4%）は6割台となった。

5 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由 (P377)

「4 『肝炎ウイルス検査』の受診状況」で、肝炎ウイルス検査を「受けたことがない」と回答した人にその主な理由を複数回答（3つまで）で尋ねたところ、「健康なので必要ないから」（20.1%）と「日程や場所がわからなかったから」（20.1%）がともに2割であった。

また、「特に理由はない」（46.4%）が4割台であった。

第13章 「未病改善」の取組

1 「未病改善」の取組の重要度 (P379)

「未病改善」の取組について説明した上で、「健康寿命の延伸」を目指す上で、「未病改善」の取組が重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」（51.2%）と「どちらかといえば重要だと思う」（32.1%）を合わせた《重要だと思う》（83.3%）は8割台となった。

一方、「重要だと思わない」（2.0%）と「どちらかといえば重要だと思わない」（3.3%）を合わせた《重要だと思わない》（5.3%）は1割に満たなかった。

2 「未病改善」の取組の実践 (P381)

神奈川県では、「未病改善」の取組として、①食（栄養・オーラルフレイル）、②運動（身体活動・ロコモ・睡眠）、③社会参加（交流）を中心とする生活習慣改善を呼びかけていることを説明した上で、実際に取り組んでいることを複数回答で尋ねたところ、「バランスのよい食生活」（62.5%）が6割台で最も多く、次いで「日常生活に運動やスポーツを取り入れる」（37.7%）が3割台であった。

一方、「何も取り組んでいない」（21.2%）は約2割であった。

3 「未病改善」の取組を始めたきっかけ (P383)

「2 『未病改善』の取組の実践」で「未病改善の取組を実践している」と回答した人に、取組を始めたきっかけを複数回答で尋ねたところ、「体調に変化を感じた」(33.5%)が3割台で最も多かった。

4 「未病改善」の取組をしていない理由 (P385)

「2 『未病改善』の取組の実践」で「何も取り組んでいない」と回答した人に、取り組んでいない理由を尋ねたところ、「忙しくて時間がない」(31.4%)が約3割で最も多く、次いで「情報が少なく、どうやって始めればよいかわからない」(8.5%)が1割に満たなかった。

また、「特にない」(18.8%)は約2割であった。

第14章 人生100歳時代の設計図

1 人生設計の有無 (P387)

神奈川県では、健康寿命が延び「人生100歳時代」をむかえる中、一人ひとりが自分自身の人生の設計図を描き、生涯にわたり輝き続けることができる社会を目指す取組を進めていることを説明した上で、「人生設計(今後どのような人生を歩んでいくか具体的に計画を立てること)」を考えているか尋ねたところ、「考えている」(48.0%)と「考えていない」(48.4%)がともに約5割であった。

2 人生設計を考えていない理由 (P389)

「1 人生設計の有無」で人生設計を「考えていない」と回答した人に、人生設計を考えていない理由を尋ねたところ、「考えるきっかけがない」(32.1%)が3割台で最も多く、次いで「将来が不安で考えたくない」(29.2%)が多かった。

3 人生設計を考えるきっかけ (P391)

就職や退職、結婚等の人生の節目の出来事以外で、人生設計を考えるきっかけとなると思うものについて尋ねたところ、「家族で考える場(機会)」(36.2%)が3割台で最も多かった。

4 退職後や65歳以降の人生で不安に思うこと (P393)

退職後や65歳以降の人生について、不安に思うことを複数回答(2つまで)で尋ねたところ、「経済面で不安である」(68.5%)が約7割で最も多く、次いで「健康面が不安である」(56.8%)が5割台となった。

5 退職後や65歳以降の人生でやりたいこと (P395)

退職後や65歳以降の人生でやりたいと考えていることを尋ねたところ、「趣味の活動(運動等を含む)」(58.3%)が約6割で最も多く、次いで「仕事」(14.1%)が1割台であった。

6 退職後や65歳以降の就労の希望 (P397)

退職後や65歳以降の就労の希望を尋ねたところ、「パートタイムで働きたい」(32.6%)が3割台で最も多く、次いで「働かずにほかのことに時間を使いたい」(31.0%)が多かった。

7 退職後や65歳以降の就労の目的 (P399)

「6 退職後や65歳以降の就労の希望」で「フルタイムで働きたい」、「パートタイムで働きたい」、「起業したい」のいずれかを選択した人に就労の目的を尋ねたところ、「生活のため」(52.4%)が5割台で最も多く、次いで「健康のため」(19.4%)が約2割であった。

8 地域活動への参加頻度 (P401)

地域活動(ボランティア、町内会等)への参加頻度を尋ねたところ、「参加していない」(58.0%)が5割台で最も多く、「年に1、2回程度」(15.4%)と「月に1、2回程度」(11.8%)が続いた。

9 地域活動の参加の妨げとなる理由 (P403)

「8 地域活動への参加頻度」で「半年に1、2回程度」、「年に1、2回程度」、「参加していない」のいずれかを選択した人に、地域活動の参加の妨げとなる理由を尋ねたところ、「時間がない」(33.4%)が3割台で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」(28.2%)が多かった。

10 地域活動に参加するための支援やきっかけ (P405)

地域活動に関して、どのような支援やきっかけがあれば参加しやすくなるか尋ねたところ、「知人や家族等からの誘い」(52.8%)が5割台で最も多く、次いで「学校や職場等からの働きかけ」(12.6%)が1割台であった。

11 自己の充実やキャリア開発を目的とした講座等の受講状況 (P407)

自己の充実やキャリア開発を目的とした講座等を受講したことがあるか尋ねたところ、「はい」(36.0%)は3割台であった。

一方、「いいえ」(58.8%)は約6割となった。

12 自己の充実やキャリア開発を目的とした講座等を受講するきっかけ (P409)

自己の充実やキャリア開発を目的とした講座等を受講するために、どのような支援やきっかけがあれば良いと思うか尋ねたところ、「学んだことを活かす場の提供」(23.7%)が2割台で最も多く、「講座に関する広報・周知」(22.5%)と「講座内容の充実」(20.0%)が続いた。

第15章 とともに生きる社会かながわ

1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度 (P411)

とともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」(81.5%)が約8割で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」(12.0%)が1割台であった。

2 とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度 (P413)

とともに生きる社会かながわ推進週間を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」(85.5%)は8割台に達した。

一方、「知っている」(1.9%)は1割に満たなかった。

3 とともに生きる社会かながわ推進週間を知った広報の方法 (P415)

「2 とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度」でとともに生きる社会かながわ推進週間を「知っている」と回答した人に何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県の広報誌」(75.0%)が7割台で最も多く、次いで「新聞広告」(45.8%)が4割台であった。

4 身近で障がい者と接する機会 (P417)

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(36.2%)が3割台で最も多く、次いで「あまりない」(29.3%)が多かった。

5 障がい者への差別・偏見の有無 (P419)

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(25.4%)と「少しはあると思う」(28.2%)を合わせた《あると思う》(53.6%)は5割台となった。

一方、「ないと思う」(15.3%)と「あまりないと思う」(21.0%)を合わせた《ないと思う》(36.4%)は3割台であった。

6 障がい者に配慮した行動をとる人 (P421)

5年前と比べて、障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(7.4%)と「ある程度増えたと思う」(36.2%)を合わせた《増えたと思う》(43.6%)は4割台であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(6.3%)と「あまり増えていないと思う」(16.1%)を合わせた《増えていないと思う》(22.4%)は2割台であった。

第16章 「手話」への興味・関心

1 手話への関心 (P423)

手話に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(12.1%)と「どちらかといえば関心がある」(25.0%)を合わせた《関心がある》(37.2%)は3割台であった。

一方、「関心がない」(18.8%)と「どちらかといえば関心がない」(29.8%)を合わせた《関心がない》(48.6%)は約5割であった。

2 手話に関心を持ったきっかけ (P425)

「1 手話への関心」で「手話に関心がある」と回答した人に、手話に関心を持ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「テレビ番組」(51.4%)が約5割で最も多く、次いで「学校教育」(13.5%)が1割台であった。

3 手話を学ぶきっかけ (P427)

どのようなきっかけがあれば手話を学んでみたいと思うか複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「手話講習会」(37.9%)が3割台で最も多く、次いで「学校教育」(20.0%)が2割であった。

4 希望する手話の学習方法 (P429)

手話を学ぶ場合、どのような手法で学びたいか複数回答で尋ねたところ、「手話講習会」(49.5%)が5割で最も多く、「手話サークル」(24.4%)と「テレビ番組」(22.1%)が2割台で続いた。

第17章 配偶者等からの暴力

1 夫婦間での行為における暴力としての認識 (P431)

夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた暴力について、それぞれ暴力だと思うか尋ねたところ、「暴力にあたる」では、「刃物などを突きつけて、おどす」(92.7%)と「足でける」(90.9%)がともに9割を超えて多かった。

一方、「暴力にあたらぬ」では、「交友関係や電話を細かく監視する」(20.1%)が2割で最も多かった。

2 配偶者等からの暴力(DV)について知っていたこと (P438)

配偶者等からの暴力(DV)について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」(77.5%)が7割台で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」(53.1%)が5割台となった。

第18章 治安対策

1 不安に感じる犯罪 (P440)

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安に感じるものを複数回答で尋ねたところ、「空き巣」(63.5%)が6割台で最も多く、「コンピュータへの不正アクセス」(51.9%)と「ひったくり」(49.7%)が続いた。

2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき (P442)

身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときか尋ねたところ、「制服警察官がパトロールしているとき」(31.9%)が約3割で最も多く、次いで「身近な事件、事故が解決したとき」(29.7%)が多かった。

3 犯罪被害の不安を感じる場所 (P444)

犯罪の被害にあうかもしれないと不安を感じる場所はどこか複数回答で尋ねたところ、「道路」(58.6%)が約6割で最も多く、次いで「繁華街」(48.2%)が約5割であった。

4 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法 (P446)

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、情報を得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」(72.1%)が最も多く、「回覧板」(37.1%)と「新聞」(34.4%)が3割台で続いた。

5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの (P448)

交通事故のない社会を目指すために重要だと思うものを複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「白バイやパトカーによる警戒」(50.8%)が約5割で最も多く、次いで「交通安全施設の整備(信号機、道路標識・標示等)」(44.8%)が4割台であった。

6 高齢者の交通事故を抑止するために重要だと思うもの (P450)

高齢者の交通事故を抑止するために重要だと思うものを複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「運転免許返納後の移動手段の確保」(61.6%)が約6割で最も多く、次いで「運転免許自主返納の促進」(54.5%)が5割台となった。

7 安心して暮らすために最も重要だと思うもの (P452)

犯罪や交通事故がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うものを尋ねたところ、「地域住民同士のつながり」(25.5%)と「防犯カメラ等の防犯設備の整備」(24.4%)がともに2割台であった。

第19章 地震対策の取組

1 大きな地震に備えた対策 (P454)

神奈川県では、東海地震や神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘され、また首都直下地震の発生が懸念されるなど、大規模地震に対する備えが重要課題になっていることを説明した上で、大きな地震に備えて、どのような対策を取っているか複数回答で尋ねたところ、「食糧や飲料水を備蓄している」(52.6%)が5割台で最も多く、次いで「非常持ち出し品を準備している」(42.6%)が4割台であった。

2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度 (P456)

「1 大きな地震に備えた対策」で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している（一部固定を含む）」と回答した人に、家具・家電などの転倒・落下・移動の防止対策がどの程度までできているかを尋ねたところ、「重量のある家具・家電などの一部の固定はできている」(36.7%)が3割台で最も多く、次いで「重量のある家具・家電などの固定はできている」(30.5%)が多かった。

3 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由 (P458)

「1 大きな地震に備えた対策」で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している（一部固定を含む）」と回答しなかった人に、家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由を複数回答で尋ねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」(31.3%)が約3割で最も多かった。

4 感震ブレーカー等の認知度 (P460)

「1 大きな地震に備えた対策」で「感震ブレーカー等（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している」と回答しなかった人に、感震ブレーカー等を知っていたか尋ねたところ、「知っていた」(24.8%)が2割台であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」(58.8%)は約6割となった。

5 食糧や飲料水の備蓄量 (P462)

大災害が発生し、交通が途絶、停電が続く中で、現在ご自宅にある食糧（冷蔵庫や非常持ち出し品、備蓄品などすべてを含む）を家族全員で食べるとして、何日くらいもつと思うか尋ねたところ、「3日」(42.2%)が4割台で最も多く、「5日」(14.9%)と「2日」(14.7%)が1割台で続いた。

6 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動 (P464)

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間揺れを感じたらどのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難開始）」(86.3%)が8割台で最も多かった。

7 津波に関する知識 (P466)

津波に関する9項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」(90.6%)が約9割で最も多く、「津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」(88.6%)と「津波は、繰り返し襲ってくる」(87.7%)が続いた。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗（『オレンジフラッグ』といいます）が出されることがある」(82.7%)が8割台で最も多かった。

